

平成29年度 第4回半田市地域公共交通会議事録

開催日時	平成30年3月27日（火）	9時50分～12時00分
開催場所	半田市役所 大会議室	
会議次第	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p>3. 報告事項</p> <p>(1) パブリックコメントの結果について</p> <p>(2) 地域における懇談会等一覧について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）有脇亀崎線乗車体験会について <p>4. 協議事項</p> <p>(1) 半田市地域公共交通網形成計画（案）について</p> <p>(2) 地区路線Aの運行について</p> <p>①基幹路線A 路線図</p> <p>②基幹路線A 運行概要</p> <p>③基幹路線A 経由地一覧</p> <p>④基幹路線A 車両</p> <p>⑤基幹路線について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有脇線、亀崎線、上池線、花園線、鴉根線の廃止 ・常滑線の青山駅乗り入れ、（仮称）北部幹線の新設 <p>(3) 平成30年スケジュール（案）について</p> <p>5. その他及び情報交換</p>	
出席委員 【欠席委員】	<p>（会長）</p> <p>半田市 副市長</p> <p>（委員）</p> <p>知多乗合株式会社取締役バス営業本部長</p> <p>安全タクシー株式会社代表取締役</p> <p>愛知県タクシー協会知多支部長</p> <p>公益社団法人愛知県バス協会専務理事（代理）</p>	

	国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官 名鉄知多タクシー労働組合執行委員長 【愛知県知多建設事務所維持管理課長】 愛知県半田警察署交通課長（代理） 亀崎地区代表区長 乙川地区代表区長 半田地区代表区長 成岩地区代表区長 半田商工会議所福祉共済課長 社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長 半田市老人クラブ連合会会長 特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長 一般市民（市民公募） 名古屋大学環境学研究科教授 半田市総務部長 半田市建設部長 半田市市民経済部長 半田市福祉部長 半田市議会議員 名古屋鉄道株式会社中部支配人（代理） 愛知県振興部交通対策課主幹
事務局	防災監 齊藤清勝 防災交通課 副主幹 間瀬恒幸、事務員 大岩亮太
傍聴者	7名

次 第	議事概要
2. あいさつ	（会長あいさつ） 皆さん、おはようございます。副市長の堀寄でございます。 年度末の慌ただしい中、ご出席をいただき大変ありがとうございます

ございます。

この会議の議題となっております半田市地域公共交通網形成計画におきまして公共交通の再生をどう推進していくのか、基本的な方針として、交通ネットワークとかサービスの水準などについていろいろとこれまでご意見を伺ってきております。

また、後ほど事務局から説明があろうかと思えますけれども、地域にお邪魔をしまして、数多くの懇談会とかパブリックコメントという手順もこれまで踏んでまいりました。

また、議会にも予算をご承認いただいております、来年度の実証運行に向けまして、必要な予算措置も済んでおるという段階でございます。

本日お諮りをしております議題のご承認をいただいた後、計画しております各路線バスについて、バス停の設置とか運行ダイヤ、運行委託先の選定など、具体的な実施計画を速やかに進めていく予定でおります。

この場をおかりして皆さんにご報告といたしますか、既に新聞等で随分話題になっております、新しい半田病院の建設位置でございますが、3月19日に、半田運動公園を予定地とすることを正式に市として決定したところでございます。この病院いつできるかといいますと平成37年、できれば前倒したいという考えは持っておりますが、普通のスケジュールでいくと平成37年のゴールデンウィークぐらいに引っ越しをする予定となっております。

実は私、この新病院の建設候補地の検討委員会のメンバーでもあります、この会議の中でも新病院に対する交通アクセスのことが随分議論になりました。

先ほど申し上げましたように、病院の開院、平成37年まではまだ少し時間がありますので、今ここで皆さんにいろいろご検討いただいております10月から始まる新しいバス路線の実

	<p>績とか問題点を一度きちっと洗い直して、37年の開院に向けて、交通アクセス等をしっかりと議論していきたいということで検討委員会の中でもお願いしております。</p> <p>また、この地域公共交通網形成計画は平成30年から34年までの5年間の計画という定義でもございますので、皆様も新病院のアクセスについていろいろご心配をいただいておりますところだと思いますが、今日のこの場でいろんな議論をするのではなく、新病院についての交通アクセスにつきましては、繰り返しになりますけれども、これから走らせる実証運行の結果等をしっかりと検証して、また37年より早い段階で議論を別のところ、あるいは、この地域公共交通会議でしていただくことになるかもしれません。</p> <p>今後の実証運行を十分に検証させていただきまして、また地域の皆様のご意見とか近隣市町との協議もこの後控えております。そういったことをしっかりとやりまして、新病院のアクセスについて、きちっとしたものを整えてまいりたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。</p>
<p>3. 報告事項</p> <p>(1) パブリックコメントの結果について</p>	<p>(事務局)</p> <p>説明</p> <p>(半田市議会議員)</p> <p>このパブリックコメントは手続上やったということで、たくさんの意見が集まったのはいいのですが、本来この集まった意見を反映させることがこのパブコメの仕組みというのか役割だと思います。このいただいた意見の中で、読ませていただきますと、市の考えを述べて、どっちかという説得してそうじゃありませんというように書いてあるところが多いんですが、何かいただいた提言や意見を取り上げていくような、反映させるようなものはあるのでしょうか。</p>

(事務局)

後ほど公共交通網形成計画（案）の協議事項のところでお話しさせていただこうとは思っていたのですが、このパブリックコメントのご意見の中身が、既に計画に記載されている「運賃」や「乗継ぎの方法」といった部分であることや、路線の細やかなところが大半となっています。

そのため、特にこのパブリックコメントを受けて計画の中身として変わるところはなく、ご意見に対する回答といった形になっています。

(半田市議会議員)

じゃあ、やらなくても結果は同じということになりますか。

(名古屋大学環境学研究科教授)

パブコメに携わるときにはお願いしていることがあります。パブコメの返事はどうやって書くかっていうと、最初に「反映させていただきます」とか「今回は反映できません」とか、あるいは、この計画とは全然関係ないこともあったりするので、「それはまた別の違うところで反映したいと思います」とか、「それは間違っているんじゃないですか」というふうに端的に。要するに、これはとてもいい意見なので取り入れました、実際計画も変わりましたとかいうふうにまず書いて、で中身を書いたほうがいいと思います。

今のお答えはいいのですが、意見に対する市の考えっていうところで、よく読まないとそのことがわからないのはよくないと思います。

網形成計画自体が、詳しい路線については決めないという。両方あると思います、停留場の位置まで全部決めている計画もあれば、ややボワッとした感じで決めているものもあって、こ

れはどちらもあります。半田の場合は、もうちょっと詳細なところは今後さらに詰める考えです。

逆に言うとそのほうが、もし運行開始して細かい修正とかが必要であったら、計画を変えるのではなく、実際の運行のところを変えるということでやっていけばいいので、細かい路線の案とかがあってというのは言われても、この計画では反映しないけど、そちらの詳細の路線のところでは考えて、参考にするという答えもあるわけです。

そういうことがわかるように何か最初に1行入れていただくといいと思います。そうすると、実際の路線を考えるときにこの意見は参考にしますとか、あるいはちょっと方針が全然違っているのではありませんとかにしてももらいたい。

今、パブコメする必要はなかったですねということですが、決してそうではなくて、この計画の範疇では変更する点が無かったけれど、詳細のところを見ると参考になる意見もあるかというふうに考えていますので、そういうことがわかるようにしていただきたい。

要は、書いた人が無駄だったと思わないように、ちゃんと誠実に答えてくれているというふうにしてほしい。これ、今一応対応案ですけど、そこは今の私の考えも入れていただいて公表していただけるといいなと思っています。

ちなみに、この結果はいつ公表する予定ですか。

(事務局)

本日の会議を経て、できる限り早い段階で公表していきたいと思っております。

(名古屋大学環境学研究科教授)

パブコメはそれぞれの自治体でいろいろ考え方があって、見

ると返答の仕方もさまざまですけど、これは詳しく書いてあると思います。ひどいところは「ありがとうございました」しか書いてないようなところもあります。ただ、今言ったように、逆にいっぱい書いてあるので、結局反映しているか、いないのかが分かりにくいので、ちょっと工夫していただけるといいなと思います。

(事務局)

先生からご指摘いただきましたので、もう少しわかりやすくさせていただくということと、書いた人の気持ちになって、無駄だったなと思われぬような回答に変えさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(会長)

ほかにご意見、ご質問ありませんか。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

昨日も愛知県内のある市の公共交通会議、全く同じ状況で、網形成計画をつくって公表するというパブコメもありました。ところが、パブコメは3名の方からいろいろ意見はあったのですが、この数が全く違うということで、半田市さんが今まで地域懇談会とかやってきた中で非常にいろんな意見が出てきているというのは、関心が深いし、非常に内容も濃いなと思っております。これはやった意義はかなりあると思っております。

その中で1点、12ページを見ていただきまして6番、高齢者の事故云々というものは、昨今いろいろ社会的な現象がある中で、免許証返納の支援制度もここに書いてあります。バス回数券というふうに書いてありますが、メニューも、もう少し検討して、タクシーであったりとか選べられるような体制。どこ

	<p>かで81歳のお父さんが免許返納しなくて困っていますよというような意見もありましたが、ここらあたりもあわせて、網形成計画を推進していく上で、検討していただきたいと思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>免許返納の支援制度につきましては、30年度の補助金判定会議がございますので、そちらへ制度設計をいたしまして、お諮りしたいと考えております。本格運行にあわせまして支援制度を整えてまいります。</p>
<p>(2) 地域における懇談会等一覧について</p>	<p>(事務局)</p> <p>説明</p> <p>意見や質問なし</p>
<p>4. 協議事項</p> <p>(1) 半田市地域公共交通網形成計画(案)について</p>	<p>(事務局)</p> <p>説明</p> <p>(愛知県タクシー協会)</p> <p>先回の会議の発言を受けていただいて、タクシーの数字も反映いただき大変感謝しております。</p> <p>我々事業者といたしましても、1日1,500台という数字は当然のことながら初めて見る数字ということでございまして、多いのか少ないのかといふとなかなか比較対象がないものですからあれですけど、ほかの例えば鉄道、バスなんかの指標に比べて、現状維持ということに関してコメントさせていただきますと、先回も申し上げたのですが、運転手不足に非常に業界は泣いています。バスもトラックもですが、特にタクシーも非常に厳しくて、現状維持がなかなか難しい。</p>

それから、安倍政権が国策として進めようとしている働き方改革というのがありまして、来年の4月から60時間以上は5割増しの賃金を払えということになるわけですけど、当社名鉄知多タクシーは世間並みというか、時間外は80時間以内にとどめるようにということのを当然のことながらやっていますが、簡単な話20時間の落差が出るというところで、供給過多が果たしてどうなるだろうかということです。

タクシーはバスとかトラックと違って運転手が稼ぐ時間帯がいろいろあるものですから、国策に対して反旗を翻すようではいけません、ちょっと感覚が違うということを訴えたいんですけど、既に60時間オーバーは5割増しを払えということが決まっておりますので、それに対してどうするか。

もう1つは、大きな波で自動運転の波がございまして、近々不幸な例ですが、ウーバーというアメリカの会社が自動運転で死亡事故を起こしたということで、トヨタ等々もちょっとストップがかかっておるというところはありますけれども、科学の進歩は絶え間なく、いつ何どきそういうことが起こるか、愛知県内でも相当いろいろ実験がされております。

そういったことを鑑みて、とても収入アップ、台数のアップは果たせませんが、何とか今の維持を果たしていきたいという思いを感じていただければということでございます。

もう1つ、1日1,500台ということのを、単純に365日掛けますと54万7,500という数字になります。年計ベースで54万という数字になります。参考までに、これ行政ベースがあまりにも違うので比較にもなりません、隣の東浦町の網形成計画で出させていただいた数字が、目標値が年計ベースで3万台ということございまして、それに対して54万台ということになるものですから、当たり前の話ですが、それぐらいの需要と供給にできていこうということでございますので、

よろしくご配慮のほどお願いします。

(会長)

台という話と、この資料の中「件／日」という書き方がしてあるんですけども、台と件のところの整理の仕方を教えていただけると助かります。

(愛知県タクシー協会)

私どもは台という理解をしております。事務局のほうで件ということですけども。先回の会議で申し上げましたのは、タクシーの中に何人乗っているか人数まで勘定するのは大変なことなので無理だということをお話し申し上げて、私の個人的な解釈では、台と件はイコールでよろしいかと思います。どちらの表現でもよろしいかというところでございます。

(会長)

ありがとうございます。

この話で何かほかにご意見、ご質疑はよろしいでしょうか。

(半田市観光協会)

下の大きなページの47というところで、観光企画切符の販売目標値というところで、34年のところで年間800枚という数字が入っています。いろいろ計算すると少ないんじゃないかというご意見もあると思うのですが、事務局さんからこの辺のお話をいただいたときに、私の今現在の考えられるところだと、実は昨年春から半田市の観光課さんで名鉄さんと春のキャンペーン、従来秋キャンペーンを9月中旬～11月とかでやっていたんですけど、春のキャンペーンも市の観光課さんでやっていただけるようになりました。

そうすると、名鉄さんを中心とした公共交通を使って半田市におみえになる形のキャンペーンが年間4カ月から5カ月は続いていこうと観光協会は思っていますので、その5カ月の中で名鉄の切符と観光コースを回るバス路線との連携という数字がとれるところで、800というところでまずは出させてもらうのがいいのではないかと事務局さんとお話ししました。

ただ、今日のパブコメを見ていまして、観光コースは名鉄さんの西側だけですね。今ですと、一瞬赤レンガには来るんですけど、南吉記念館とか博物館という主に高台の観光文化施設を回るようになっていまして、半田運河蔵のまち、ミツカンミュージアムさんとか國盛さんがある部分を観光コースとしてどう考えるんだろうというパブコメのご意見をいただいているところがあるので、実証運行をして、その先のところでコミュニティ路線ともう少し観光との重なり合わせだとか連携が、1年後2年後いろんなご意見が出ていけば、このところの観光企画切符というのはもっと多様性が出てくるので、ぜひこのぐらいの目標値でいって、3年後5年後にこれを上回ることを目指すところが観光分野かなと思っています。

事務局さんからご相談いただいたときの根拠は、まず公共交通、名鉄さん中心ですけど、5カ月間はキャンペーンというものがおおむね半田の中では動くだろうとお話させていただいたのがここへ出ている、市の観光協会としてはそういうものをもってお答えさせていただいたので、ぜひこれをもっと進めるところのご意見とかを、今後観光分野の方たちともっと具体的に話していく必要があるかなとは思っています。

(半田市市民経済部長)

実は1カ所、私どもの立場、観光を担当している立場からすると非常に違和感があるのは、58ページに観光線の記載があ

るんですけれども、今、松見さんからのご指摘がありましたし、パブリックコメントの中にもあったんですが、半田市の観光の中心というのは、実は半田運河とミツカンミュージアム、そして酒の文化館、赤レンガ、南吉記念館を結ぶルートが半田市のメインの観光ルートになっています。

今回ご提示いただいた観光線というのが、これは次の地区路線の協議の中でお話をしたほうがいいのかもしれませんが、半田運河のほうには寄らずに、基本的には知多半田の駅から西側を回るというコースだとちょっと違和感がある。

その辺、「観光線」という名称ではあるものの、半田運河の周辺に行かない根拠みたいなものがあれば、教えていただきたいと思います。

(事務局)

ただいま仮称ということで「観光線」という名称を一義的につけさせていただいておりますが、当初は「岩滑観光線」という名前で、やはり地域も救いながら、市の観光施策である観光施設もある程度回っていこうという路線でやっておりました。

ただ、仮称でも「岩滑」とつけるには岩滑のところを通らなすぎ過ぎるなというところもあって、現在は「(仮称)観光線」ということとしています。ここについては、この先「観光線」という名前を使おうと思っておりません。

まず、実証の段階で、今の(仮称)観光線で観光施設を全て回るのでなくて、乗り継いでいただければ半田運河のほうにも行けるし、蔵のまちにも行っていただける。これは観光だけではなくて、それぞれの地域に住まわれている方の暮らしの足としても。同じ地域の中はコミュニティバス、地区路線で回れますけど、例えば市役所のほうに出てくるためには乗り継いで来ていただくという方法になっておりますので、観光でおみえ

になった方も、1本で回るのではなくて、乗り継いでいただきながら行っていただく。その観光企画切符や何かも、当然その線だけではなくて、市内全ての路線に使えるものを目指していきたいと思っております。

いずれにしても、この実証運行である程度様子を見ながら、また繰り返し検討して変えていきたいと思っております。

(半田市市民経済部長)

1点だけ懸念していることをお伝えさせていただきます。

観光線という名称で例えばPRすると外から来たお客様は当然行けるものだとは認識してしまいますので、その辺は名称とか、PRされるときには十分ご注意いただきたい。我々も注意してPRしていきたいと思っておりますので。将来的には、そちらのほうも視野に入れてルート設定をしていただきたいと思えます。

(事務局)

ありがとうございます。

(会長)

ほかにご意見、ご質疑。

(市民委員)

資料3の地図を見て言っているんですけど、(仮称)亀崎・有脇線の亀崎小学校ルートっていうのは、大体これでいこうということですかね。まだこれからルートについて変更は考える。

(事務局)

この後の協議事項(2)のところで、この路線についても本
日ご協議いただき、決めていきたいと思っております。実証運
行のルートとして、今日お諮りさせていただいて、決めていき
たいと考えております。

(会長)

ほかにご意見、ご質疑はいかがですか。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

網形成計画の冊子のほうの案を見ていただきたいと思いま
す。56ページ、57ページ、58ページ、先ほど先生が言わ
れた中で前回とちょっと変わったところは、路線を、この網形
成計画には、例えば56ページでいくと、亀崎・有脇線のとこ
ろをざっくりという形に記載させていただきました。

これは、今後、網形成計画ができましたら5年間をこの計画
に基づいてやるということで、私どもの本省のほうにこれを提
出していただきます。これはビジョン的なものもありますし、
方針というものも、大きな計画であります。そういうことで、
簡単にいろいろ変えるとまた手続が必要になってくる。

次の議題でも出てきますけど、やはりいろいろな意見があっ
て、このルートが絶対に完璧だというものではないという解釈
といろいろと検証してやっていく上では、ここにはあまりしっ
かりとしたものは書かないほうがいいたろうということを私ど
もが思いまして、そういう形でやらせていただきました。

30年10月、コミバスを走らせることが非常に重要だと認
識はしております。ただ、5年間、この網形成計画に基づいて
半田市の活性化になるように計画をつくってビジョンを持って
いくわけですので、そういうところをご理解させていただいて、

皆様もいろいろとご協力いただきたいと思いますと思っております。

(会長)

ほかにご意見、ご質疑はよろしいでしょうか。

(社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長)

ご発言でちょっと確認したいのです。

例えば56ページのところで亀崎・有脇ルートのところは円
でくくってあるのは、先ほどの観光ルートもそうですけれど
も、この網形成計画については5年後に見直しをするという形
だと理解しておりますが、少し細かいルートを表記していない
ということは、中の例えば微調整といえますか、そういったも
のは5年の間であっても修正は可能だと思えばいいのですか。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

修正は可能ですし、場合によっては計画を変更することもで
きます。変更の手続をすればもう少し大幅に、先ほど言った観
光路線を西側だけじゃなくて東側も回るというときには、若干
修正していくことはありますけど、ある程度のことであれば、
次の議題に出てくる路線について多少変更することがあつて
も、計画までは変更する必要はないと理解しております。

(社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長)

ありがとうございました。

(名古屋大学環境学研究科教授)

さっきも言いましたけど、詳しく書けば、路線を変えれば計
画の変更をしなきゃいけないということですけど、ほかのとこ
ろですと、詳しく書いて半年ごとに変更しているところもある

ので。ただ、変更するのはちょっと面倒くさいということが生じるので、半田の場合はこうしたということで、実質的にそう違いはないのかなと思います。

ただ、当然、計画をせっかく立てたのに、ころころ目標とかそういうところまで変わるとおかしいということはある。そういう意味ではなるべく5年間変えなくていい内容でつくっていったほうがいいんだろうなという話になると思う。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

もう1つ、この計画に出てきているところで広域的なことを述べさせていただきたい。

冊子の55ページ、今まで常滑線と北部幹線という形でなかったものを、この知多バスさんの事業者路線を本当に長くこういう形で走らせていただくことが、今回日本福祉大学にも乗り入れして、スクールバスをこちらの利用につなげるということも非常に大きなことなのかなと認識していることと、あともう1つ、61ページを見ていただきたいんですけど、隣の町の武豊町のバス、これ非常に見にくいんですけど、「ゆめころん」という武豊町が非常に熱心にやっているバスがありまして、そのバスが青山駅までまた乗り入れるという、この計画の中で市町が連携した形でやっていくという。

これも30年10月の運行予定というふうに聞いておりますけど、そういう形で一緒に、半田市のコミバスを走らせるところにあわせて武豊町のバスも同じようにやっていくということでもありますので、計画として非常にこういうところもよくできていると私は思っているところです。

(会長)

ほかにご意見、ご質疑はよろしいでしょうか。

(名古屋大学環境学研究科教授)

武豊の話が出ると、東浦の委員としてはちょっと。東浦へ行きたいという人とか、「う・ら・ら」と接続してほしいというご意見が結構多く出てきたんですけど、東浦は30年度に見直しのために調査をしていくということですし、ダイヤがかなり詰まっているのでそう簡単に変えることはできません。亀崎・有脇線と接続するのも、木に竹を接ぐようなものでなかなか難しいと思っていますけど、一応両方やっていますので、どうやったら整合できるか考えていきたいと思っています。

計画について何点かあります。今日策定なのであまり大きなことを言うといけないと思っているんですが、ちょっと気になった点だけ言います。

42ページで、タクシーのことが話題になりましたが、鉄道の利用者数が1割近く増という見通しですが、これは鉄道会社には聞いていますか。そう簡単じゃないというか、すごく難しいことのようにも思いますが、ここに書くとそれなりに制約されると思うので、本当にいいのかどうか確認しておきたいというのがありました。

それから、パブコメでも思いましたが、51ページからネットワークのイメージ図があって、今のやや抽象的な路線図が描いてあるのですが、そもそも今回半田市として公共交通を見直すことで、今までこういう状態だったけど今度はこうなりますよという概要が書かれていないなと思っています。

例えば、典型的には、パブコメでも思いましたが、乗り継いだら高くなるのはやめてほしいというふうに言っている方が多いわけですけど、実は52ページの一番最後のところに書いてあるんですけど、こういう注記で書いてあるので。でも、大事なことですよね。市内を幾らで行けるようにする、乗り継いでも値段は変わらない。

乗り継ぎにしないと、どこでも直通といったら路線が長くなったり複雑になったり車がたくさん必要で、効率性も大事なので、乗り継ぎをうまく活用しながら、だけど運賃の負担は大きくならないようにしますよとかいうのがちょっとこの中になかったです。いきなり52ページの分類に行ったので、皆さんにそこをご理解いただいていたかなというの、パブコメを読んでこれを見たときの大きな感想かなと思っています。

今のような大方針が何なのかということ、51ページの公共交通の種類っていきなり言っているのですが、実は公共交通網の半田全体のサービス水準の設定がまずあって、その中でそれを担保するためにどういう種類が必要かというのがあるというふうにちょっと書き加えられないかなというのを思っていました。すみません、今気づいて。本当に今気づいたことなので。

それは、内容が変わるものじゃなくて、ちょっと説明していただけるんだったら、この点が変わるとかそういうふうに今言っていたら、最終的には会長一任とかでもいい話かなと思っていますが、それはあったほうがいいのかないかなと思いました。

あと、観光線の話が出て、先ほどの流れだと、このルートで観光線という名を名乗るなみたいな、ほぼそういうご意見だったと思いますが、やはりどうしても中途半端になってしまった。これ、駅の西しか通らないので、乗り継ぎといっても駅をまたいで、知多半田の駅の西から東へ行かないといけない。

これも、私も事前に相談させていただいたときに、当然誰でも考えることですが、それをやると本数が減ってしまう。うまく接続もできなくなってしまう。やむを得ずこうなったということです。ただ、今のこのたてつけだと、どうすれば半田駅の東側のところへ行けるようになるかという、今のままだと行

けない。どういじっても行けない状態ですが、この辺は見通しとしてどう考えているのかなど。実際試験運行したとしても、やっぱり行ったほうが良いといっても、行こうとすると60分に1本が難しくなるということが目に見えているわけです。

そうすると、先ほどのご意見はなかなか反映できなくなりますが、その辺は事務局としてどう考えるのですか。つまり、極端に言うと、増車していかないといけない話になりますが、どう考えていますか。

個人的には、観光のことであつたら、もちろん観光客で黒字になれば一番いいですが、観光で赤字であつてもたくさんの方に来ていただきたいのでこの便を走らせるという、まさに観光線の位置づけであるとするれば、やはりかなり補助を入れるという前提でルートをつくっていくことも考えなきゃいけない。そこがちょっと中途半端なことになってしまっているのかもしれませんが、ちょっとお考えは聞きたいなと思っています。

(事務局)

そもそも公共交通を半田市がチャレンジすることで、見直していくことで実はこういうふうになっていくという部分が少し、先生からも書き足しがということをお話しいただきましたので、そこは少し事務局として整理させていただいて、わずかな書き足しかもしれませんが、きちっと表現させていただいて最終案とさせていただきたいと思っています。

観光につきましては、何度も考えました。観光だけではなくて、私どもとしてもやっぱり、地域の足として活用していただくためには、ある程度買い物先を幾つか選定する中で毎日の運行を考えさせていただきましたので、こういう形にさせていただいているのが現状でございます。

今後、既にミツカンから運河へのアプローチがないというご

意見もいただいておりますので、これについては、基本的には増車を考えていかないと岩滑地区を切ってしまうことになって、文字どおり観光拠点だけを結ぶような路線になってしまいます。それは市全体の中の事業費の関係もございますので、そこは少し実証を見る中で、そんなルート設定ができれば、増車も含めて、事務局として新しい提案をせざるを得ないのかなと。

一方で、どうしても岩滑地区のふだんのお出かけの足として、今回パワードームを少し結ばさせていただいておりますけれども、環状線の主だった買い物エリアも通るような形にさせていただいておりますので、観光線という名称を少し見直しをさせていただき、とにかく実証運行の中ではこのルートで運行させていただいて、観光については、関係部局と観光協会さんにもお入りいただきまして、次なる案についてはやっぱり考えていかざるを得ないのかなと考えています。

(名古屋大学環境学研究科教授)

やっぱり1台で頻度高く回そうとしているので、南吉の家のほうまでも行けない。あるいは岩滑の奥の方ほど本来だったら公共交通を利用したいと思ってるのに、実はそこまで行っていないというのも1つ問題です。

本当にある意味、中途半端になっているところはあるんですけど、とりあえず1回目の運行は、何とかこのルートで両方通れるのか通れないのかというのをやろうということで、かなり見直しの可能性の高い路線になる。その中には増車というものも、考えざるを得ないようなものなのかなと思います。

あと、名前ですけど、これ私もよく使う手ですが、路線の名前と車両の名前と両方つけられます。路線の名前として「観光線」とつけると観光にしか使えないみたいになるんですが、例

えば車両の名前を新美南吉にちなんだものとか、運河にちなんだ名前、そういうつけ方をするとかいうのもあると思います。何とか線じゃなくて、何とか号みたいな。そうすると、何とか号というのがどういう車になるのかということも、例えばラッピングをどうするかとかいう話にもなってくるんですが、そこを2つに分けて考えて、特に車両のほうを考えていくとおもしろいのかなとちょっと思ったんです。実は車両についてはしっかり言及はされていなかったんじゃないかな。それぞれどういう車で走るのかとか、明確じゃないですね。そこはどうなっていますか。

(事務局)

車両の愛称につきましては、今度の4月15日号の市報で市民に向けて募集していこうと思っております。

車両については、この計画の中ですと64ページに公共交通の利用促進施策として、利用しやすいバス車両の導入という簡単な書き方をさせていただいております。路線ごとのバスの車両については、この会議の中ではこの計画の中身だけで、言及はございませんが、この後の協議事項の中で地区路線Aの車両について少しご審議いただきたいと思っております。

(名古屋大学環境学研究科教授)

バリフリというのは基本だと思っているので、何も書かないと当然ということになるのですが、それは大丈夫でしょうか。

というのは、どうしても小型車両だと対応しないということもよくあるわけですが、これだとそういうふうにしていこうというものも書いてあるんですが、そこはどうなんでしょうか。そこって計画で重要なところですよ。どんな方でも乗っていただけるためには、こういう車両じゃないといけないというのは大事

	<p>なところす。</p> <p>(事務局)</p> <p>この後の協議事項の中でも少しお話しさせていただこうとは思っております。特にこの亀崎・有脇線の道幅が狭い道路になっておりますが市といたしましては、3つの路線全てバリアフリーの車両を導入していきたいと考えております。</p>
<p>(2) 地区路線A の運行につ いて</p>	<p>(事務局)</p> <p>説明</p> <p>(知多乗合株式会社)</p> <p>事業者を代表しましてコメントさせていただきます。</p> <p>事務局の皆様、本当に地元に出ているいろんな意見を聞いた上で、よくここまでの路線を考えられたなということにまず敬意を表します。</p> <p>私ども事業者として、私も乗用車で有脇地区と亀崎地区を走行しましたけれども、実はバスを走らせるということは、日中の例えば閑散とした路上駐車が少ない時間帯に走ればスムーズですし、先ほどどなたかがおっしゃってた渋滞大丈夫というものもあるし、要は時間帯や曜日によって道路形状が全然違ってまいります。</p> <p>特に心配なのが、これは地元の方にご理解いただいてご協力いただかなければいけないのですが、例えば有脇の緑ヶ丘住宅とか南の君ヶ橋住宅は住宅の中までかなり入ってまいります。高齢者の方にとってみればドア・ツー・ドアで非常にいい形なんです、特に土日は路上に駐車する方が多いものですから、その辺をぜひ地元のご理解を得られるように、運行開始までに整えていただきたいと思います。</p> <p>亀崎地区につきましては、非常に狭隘なところがございます</p>

が、道路規制が結構ございます。時間帯によってはバスが通行できなかったり、その辺は地元警察の皆さんと協議しながら進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(愛知県半田警察署交通課長 (代理))

亀崎・有脇線につきましては一部、中学校の付近ということで時間規制の歩行者用道路の規制がなされております。それにつきましては、一番厳しい規制の歩行者用道路になります。通行禁止の中でも、車両を禁止する規制だとか大型車を禁止する規制というのがあるのですが、歩行者用道路っていうのは一番厳しい規制がかかっています。

それにつきましては、なかなか前例はないと思っていましたが、本庁、それから警察本部と協議をしまして、公共性が認められるということで、警察署長の通行許可を発行していきたいと思っております。それで通行は可能となっております。

(事務局)

亀崎地区の区長さん方にもご協力いただきまして、今言った歩行者専用道路につきましては地区の区長さん方の同意書もいただいております、そういったものもこれから半田警察署さんには出していきたいと思っております。そして、ご許可いただけるということで本当にありがとうございます。

また、各市営住宅の中の路上駐車につきましても、緑ヶ丘住宅につきましても一緒に話もさせていただいております、逆にバス停が置かれることで路上駐車がなくなっていくんじゃないかというお話もいただいております。地域住民の方と十分協力させていただきながら、路上駐車の対応についても取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いします。

(市民委員)

亀崎・有脇線、亀崎小学校ルートですけれど、今ここの亀崎のほうは県社からの知多バスが通っておりますので、それと比較すると、半田病院へ行くのに、今の知多バスより亀崎駅から南の人にとって料金は安くなるし時間帯も、今だと2時間に1本しかないのを1時間半に1本になるからその点はいいところですが、やはり電車、JRに乗りかえられる人は亀崎駅まで行ってJR半田駅からまた北部幹線に乗るということでいいんですけど、高齢者とか障害のある方はどうしても福祉大学まで行って北部幹線に乗らなきゃいけないということで、時間的にはそんなに変わらないのかな。実際乗ってみたいとわからないんですけど、やはり日本福祉大学で乗りかえて。南のほうの人だと、わざわざ北のほうの日本福祉大学まで行くということがやはりちょっと、そんなところまで行ってまた乗りかえてというふうに考える人が多いと思うんですね。

私は、住民のバスの会議でもう一度このルートをもう少し。どうしても福祉大学へ行かなきゃいけないことはわかるんですけど、住民が納得いくように話し合いをもう一回したほうが良いと私は思います。

(事務局)

ほかの地区と比べると亀崎地区の住民の方はとても関心が高く、地域が主催で繰り返し懇談会と申しますか話し合いを行ってきております。

亀崎地区、有脇地区の方も総じてそうですけれども、決して皆さんが全員市役所だとか半田病院に毎日行かれるわけではないと思うんですね。地域の中にお店だとか小さな病院があるものですから、そういったところのふだんの暮らしはやっぱり地域を回るバスがあったほうが良いかと思っております。

今のバス路線と比べると、今のバス路線は本当に県社前と知多半田をつなぐ路線なので、その路線にたまたま近い方は病院に行きやすい環境はありますけれども、そこから少し外れてしまうと、もう地域の中もめぐることができないものになっているかと思います。亀崎地区の方はこういったところに行かれますか、ふだんの生活でこういったところに行きますかというところを繰り返しお話しさせていただく中で、今の路線をつくらせていただきました。

ただ、この路線についても、繰り返しになりますが、10月からの実証運行では一度走らせていただいて、その利用状況だとか利用頻度、利便性等を評価させていただきまして、またこれからの見直しにつなげていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

(会長)

ほかにご意見、ご質疑。

(半田市観光協会)

この会議で前にもどなたかがご発言いただいたかなと思いますが、知多バスさんの常滑線という名称は、「半田・常滑線」とかにはならないですか。

観光をやっていると、テレビのブームもあるのか、路線バスでの行き来は非常に多くなっていて、常滑の日本遺産の六古窯に入ったということもあって、向こうから半田側に来たいという公共交通の方大変多いんですけど、太田川経由って問い合わせで言われることが多くて。いや、バスがあって。これだけ便利になってくるなら、相互のことを観光で考えると、「半田・常滑線」という名前に変えていただけないか。

私、実はこのところよく常滑線を使って常滑に行かせてい

ただいているんです。常滑駅の乗り継ぎ案内が非常に厳しいです。どう乗り継いだら病院方面に行けるかな、りんくうに行けるかなというのを毎回実はしつこいぐらい運転手さんに聞いて。「このまま待ってて大丈夫ですか。」「何番かに乗りかえないといけないですか。」「待っているよりはイオンまで歩いたほうがいいですか。」っていうのを実は毎回常滑駅でほぼ聞かせていただいています。

ひっくり返すと、それが青山駅や半田の結節点のところを出るんだなということを体感する2カ月位を過ごしています。

ぜひ常滑と相互のところと乗りかえという部分をどうサービスを上げていくかというところが、これからの半年間の準備態勢でとても必要だなと思っていますので、坂本さん相談させてください。よろしく申し上げます。

(知多乗合株式会社)

まず、これ10月1日に運行開始となりますと、当然のことながら私どもダイヤ、乗務行路を全部見直さなければいけません。また、事業者選定ということもございますけれども、いろんなパターンを考えて、効率のいいダイヤ、乗務行路を作成していきたいと思っております。それはあくまでも10月1日に全面的に見直さざるを得ないということでございます。それは、結局今の常滑線も当然のことながらダイヤをさわります。

名称につきましては、今仮称で「北部幹線」という名称がございます。これは、今日国土交通省のご担当の方もおみえになりますけれども、名称変更は当然行います。どうもこの「常滑線」という名前は、知多乗合の歴史をひもとくと、本社が半田にあつて、半田から見た形での名称になっている。ただ、利用者目線の名称ではないなということは私も個人的には非常に思っておりますので、できれば今のような形で持っていきたい

とは思っております。ただ、お約束はできませんので、何とぞご了承ください。

常滑線につきましても、イオンモールとか空港島内、いろいろ大規模展示場等、建設を進めております。当然のことながら常滑駅を基点といたしましてダイヤの見直し、路線の見直し等も図っていきたいと考えております。

(会長)

ほかにご意見、ご質疑。

(半田市議会議員)

10月からはとりあえず一回これで走らせるぞということですよ。これが具体的になると、市民の皆様も何でこんなところを走らせているんだみたいな話が出てくる中で、どういうタイミングでこれが見直されていくのか。どれぐらいの期間とりあえずこれで走らせて、どういうタイミングでいつ変えていくのかわかれば教えていただければと思います。

(事務局)

スケジュールにつきましては、計画の中に少し書かせていただいております。72ページをご覧くださいと思います。

A3のZ折りになっている部分ですが、「評価の考え方とスケジュール」と書かせていただいておりますが、平成30年度の10月から事業が実施されます。そして、30年度の1月には事業評価を行い、年度末までに見直し検討をし、31年度に事業内容を確定させていただいて、本格運行に見直しが必要であればその時点でまた見直しをしていくというものになります。

こちらの事業の評価、見直しにつきましても、これは毎年

行っていくものになりますので、よろしくお願いします。

(半田市議会議員)

最初のワンクールは把握しないのですか。

(事務局)

実証運行は1年間です。

(半田市議会議員)

4月に見直すのではないのですか。

(事務局)

平成30年10月から平成31年9月までが実証運行ですので、実施して、評価、見直し検討して、事業の内容を確定させるので。

(会長)

ほかにご意見、ご質疑はよろしいですか。

(社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長)

先ほどのバス車両の話は、バリアフリー的なバスをとということで、社会福祉協議会としてはありがたい。

一委員としてちょっと気になっていたのが、亀崎・有脇線のルートの話は結構いろんな、地域の方のご意見もあってということでご説明も多いところですが、もう一方の青山・成岩線について、地域の意見とかそんなところの状況がわかれば確認したいなと思っています。

(事務局)

正直申し上げますと、市民懇談会や「くらしの足」市民会議においても、南側の方からの意見は少なかったです。ただ、少ない中でも、イオン半田店に行きたいということや図書館、博物館の方面のルートがあるといいというご意見をいただく中で、既存のバス路線のルートも一部守りながら、この路線をつくらせていただいております。

(会長)

ほかにご意見、ご質疑はよろしいでしょうか。

(名古屋大学環境学研究科教授)

評価の話が出ましたけど、これよく見ると、資料2の72ページ。30年度は4月、7月、つまり第1、第2・四半期で事業内容の確定になっていますけど、31年度以降は第1・四半期だけで確定っていう形ですが、これ、先ほどお話でも出ましたけど、10月から変えるというのが基本ですよ。なので、それがわかるように修正したほうがいいのかなと思いました。

あと、実際通ってみたら時間がとても間に合わないとか、そういうのはこの途中でも修正というのは十分あり得ることだと思うので、そこはもう絶対に変えないとかいうのはない。ここはどっちかというルートとしてこの地区を通ったほうがいいとか、やや大き目ということで考えられたほうがいいかなということもちょっとお願いしたいと思います。

この流れは運輸局の事業評価の流れとも整合するので、補助金とかの関係でも一番いいのかなと思います。本当は4月に変えたほうがいいんですけど、補助金が結局10月から9月なので、どこの自治体もこういうふうになっているので、こういう

流れは明示してあるのでわかりやすいなと思っています。

亀崎から半田病院の流れの話が出ていましたが、現状だとそうやって行けるので、それがやや遠回りな感じになるのではということが出たんですが、OD調査、利用状況調査的にはそういう人は現状では決して多くないという結果であったということと、やはり病院に行かれる方、もちろんこれは地域で話し合っていたいただいた結果になっているので、それも踏まえているわけです。直接行けるけれども本数が少ないのがいいのか、乗りかえなきゃいけないけど近くで乗れて本数がやや多いほうがいいのかということになったときに、亀崎駅まで行けるということも考えたら、こっちのほうがいいという結果だったと思います。

今の路線とか本数だとかをやりながらなると、これがベストかどうか。ベストだとちょっと言い過ぎですけど、私自身もいろいろ考えましたが、ベターな選択かなということです。

ただ、その結果として、この亀崎の地区はとても細かいところを走るのに時間がかかって、実際乗られると大して動いていないのに時間だけかかっているなという印象になると思います。結果としては90分に1本になってしまう。これが本当は60分に1本ならよかった。ほかの地区はみんな60分に1本の運行となっています。

あと、途中で隔日運行とかにしたらどうかということとか、逆回りがいいとかいうのが出たようですが、これは全国至るところで、そういう隔日運行だとか逆回りを交互にするとか日によって左回りとか右回りとか逆にするとか。こういうのはほとんどうまくいっていない。結局単純が一番よくて、この日はこっち回りでこの日はこっちだとかいうのをやると、とても利用者がそんな難しいことには対応できないと、非常に限られたよく乗る人しか乗れなくなってしまう。

これはもうこの20年ぐらいコミュニティバスをやってきた経験から出ていることで、あんまり奇をてらって交互だとかそういうことはしないほうがいい。たくさんのところへ行こうとすると本数が減るといふ、必然的な結果になってしまった。

もしここでたくさんの方に乗っていただければ、さっき増車の話も出ましたが、あるいは地域の皆さんが支えるために例えばご寄附とかをしていただくとかってなれば増車ってことも考えられるということなので、そういうふうにはたくさん乗っていただく、支えていただくことが大事なのかな。

そこをやらないうろいろ言われても、なかなかこの地区だけで、ほかの全然走ってないところもある中で、ここだけ充実していくというのはない。もちろんこの地域の皆さんすごく考えていただいたので、こういう形で運行するということです。

でも、運行開始したから終わったわけじゃなくて、運行開始がスタートなので、ここは市役所からもきちっと言っていたきたいところ。当然、おかしなところがあればどんどん見直していくという考えで、場合によっては増やしてもいけるということもぜひ呼びかけていっていただきたいと思いました。

あと、幹線のほうは後の議論でしたっけ、今言ってもいいんですでしたっけ。

(事務局)

廃止の議論でしょうか。

(名古屋大学環境学研究科教授)

廃止じゃなくて。廃止は当然このルートになると。

あと、青山・成岩線は、実は君ヶ橋住宅と青山駅の間ですと今でも利用がそこそこあるので、そこはきちんとやっていかなきゃいけないけど、現状だと青山駅へ行くしか使えない。もち

ろん図書館とかのほうも行っているんだけど、こっちは利用が非常に少ないとなっている。そのことと皆さんのご要望を合わせるとこういうふうになりましたということですが、これも同じことで、実際にイオンへ行ってほしいって言ったけど行ってくれる人が少ないんだったら考え直さなきゃいけない。これはやはり地域の皆さんにそういうご自覚をしていただけるといいなということになると思います。

ついでながら、常滑線はこの後にももう一回、100回でも200回でも、知多バスは半田中心だから半田っていうのは最初から当たり前ってなってると思うけど、そうじゃなく、利用者にとっては全然当たり前じゃないので、ちゃんと「半田・常滑線」にしてというふうに、お願いしなきゃいけない。

あと、北部幹線とこの常滑線との、本当は直通が一番いいと思いますが、直通でないとしても乗り継ぎをどういうふうに。この乗り継ぎはどういうふうに予定しているんでしたっけ、運賃については。乗り継ぎはタダでよかったですでしょうか。

(事務局)

合わせて200円になります。片道200円ということですよ。

(名古屋大学環境学研究科教授)

だから、運賃上は知多半田で乗りかえても別に同じ、高くなるわけじゃないんだけど、やはり板山方面から、あるいは成岩方面から半田病院に。まだ34年度までは半田病院は移転しないので、5年も長いので、この5年間きちっと半田病院の足を、各地から行けるようにするということを考えると、できれば直通になるといいのかなと思います。

先ほども出ましたが、常滑の方はりんくうへ行ったりとか病

	<p>院へ行ったりとか常滑市民病院に行ったり、こっちのほうで渋滞すると北部幹線のこちらまで全部渋滞の影響があつてダイヤがすごく乱れるとか、運転手さんのシフトをどうするかということも影響してくるのでいろいろ考えていただく必要があります。一番いいのは直通、それが難しくても乗り継ぎが円滑にできるようにしていただけるといい。これは知多バスにしっかり考えていただけると思うので、ぜひお願いしたいと思います。</p> <p>(会長)</p> <p>ほかにご意見、ご質疑はよろしいでしょうか。</p> <p>では、今議論の中にもありましたけれども、基幹路線のうち廃線となる有脇線ほか4路線につきましては、次回の公共交通会議において改めて知多乗合さんから説明をいただきたいと思っております。</p>
<p>(3) 平成30年度スケジュール(案)について</p>	<p>(事務局)</p> <p>説明</p> <p>(愛知県タクシー協会知多支部長)</p> <p>すみません、ちょっと気になった単語があつたんで。</p> <p>予定の4月に事業者選定とあるんですけど、別に私のところは手を挙げるつもりはないですが、どういう範囲で募集されるつもりかな。概略だけでも教えていただければ。要は、これだけの規模のやつを募集要項とかいろいろ見てやるのに、ええかげんなこと出されても困るということも含めてです。何か条件とかお考えがあればお聞かせいただければと思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>仕様書をまとめさせていただいておまして、申しわけないですが、今日この会議の中で発表できるところまで精度が至っ</p>

	<p>ておりませんので、差し控えさせていただきます。</p> <p>(会長)</p> <p>ほかにご質疑はどうでしょうか。</p> <p>(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)</p> <p>6番の2)再編事業に関する協議ということで、今年度の最初の会議でも、再編事業は国の認定を受けるのは非常にハードルが高いよということは申したと思っております。</p> <p>その中で、ここまでの路線がほぼ固まってきた段階で、現状の制度として認定を受けるには、路線ごとに利便性と費用を含めた効率性、費用もそれなりにかけないようにして利便性が向上しますよということを数値で出してもらおうようなシステムになっておりまして、それがクリアできないと認定できないという現状でありますので、そこもあわせて。</p> <p>30年10月に向けてやるのがたくさんあることは私も重々承知しておりますけど、そういう制度になっておりますので、またその手続、資料等も提出をお願いしたいということで、よろしく申し上げます。</p> <p>(事務局)</p> <p>ありがとうございます。進めさせていただきます。</p>
<p>5. その他 及び情報交 換</p>	<p>(事務局)</p> <p>来年度会議の開催について説明 質問や意見なし</p> <p>終了</p>

